ショウガの新病害「紅色根茎腐敗病」

写真1

写真2

写真3

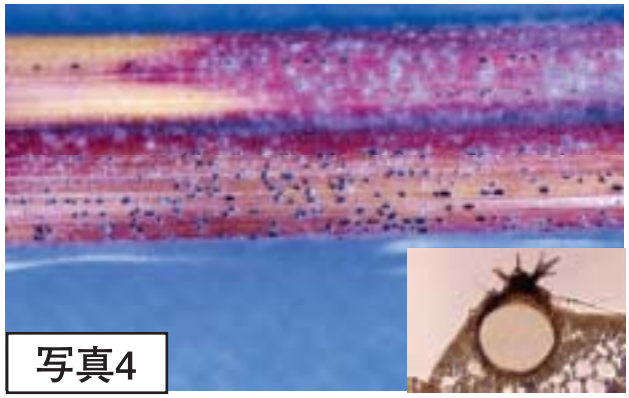
写真4

2000年11月、高知県四万十町（旧窪川町）において、収穫中のショウガに根茎表面が褐色または暗赤色に変色して亀裂が入り、切断すると内部が褐色水浸状に腐敗し（写真1）、重症株では組織が崩壊して陥没する症状が発見されました。また、その翌年の3月には、貯蔵後のショウガにおいて、根茎内部の腐敗を伴わずに表面が赤色に変色する症状（写真2）が発見されました。

両症状からは同一種と考えられる糸状菌が分離され、本糸状菌をショウガ根茎の表面に有傷および無傷で接種したところ、有傷では根茎内部が褐色水浸状に腐敗し、無傷では内部の腐敗は見られず根茎表面が赤色に変色しました（写真3）。また、本糸状菌の汚染土壌で栽培したショウガにも同様に、内部が褐色水浸状に腐敗する症状が再現されました。

本糸状菌は、麦桿上で分生子殻を形成し（写真4）、その形態的特徴や培養菌叢が暗赤色を呈する特徴から、*Pyrenochaeta terrestris*と同定し、紅色根茎腐敗病と命名しました。

なお、本病の生態や防除対策については今後検討し、明らかにする予定です。

（病理担当　矢野和孝　088-863-4915）